

Newsletter

Vol.9
2017.7

Contents

- 平成28年度修了式
- 平成29年度入門式
- 国際シンポジウム・セミナー
- 研修（欧州、アジア、国内）
- 国際・国内インターンシップ報告
- 道場講話
- 活動予定

U-ATOM (ユーアトム) とは

グローバル原子力安全・セキュリティ・エージェンツ教育院では、「全寮制などを導入した新しいユニークな原子力教育（世界原子力安全・セキュリティ道場）」を実施しています。「Unique」の頭文字とATOM（原子）を合わせ、U-ATOM（ユーアトム）としました。

平成28年度「世界原子力安全・セキュリティ道場」修了式



平成29年3月28日、東京工業大学の環境エネルギーイノベーション棟多目的ホールにて、U-ATOM初の修了生である1期生の道場修了式が行われました。伊賀健一前東工大学長と松井康真テレビ朝日報道局長から祝辞を頂いた後、修了者の3名が、博士号授与までの苦労話、教職員への感謝の言葉などを述べました。関係者の署名入りの色紙を授与されるなど、参列者から暖かい声援を受け、高い志を胸に、将来世界で活躍できるリーダーを目指して羽ばたいていきました。

近況報告 (2017年6月)

塚田圭祐
株式会社 東芝



原子炉起動時の原子炉および二次系タービン周りの挙動解析を行っています。U-ATOMでは、過酷事故シミュレーション実習を行ったため、現在の仕事に直結しています。それ以外にも、発電所見学などで得た原子炉内部の構造やシステムの知識を活かして、仕事をしています。研究だけでは、仕事に直結するような知識は得られないと思いますが、U-ATOMでの色々な経験は、社会に出てから仕事に生きてくると思います。

深津勇太
国立研究開発法人
日本原子力研究
開発機構



地層処分に係る研究に従事しています。まだ数カ月しか経っていませんが、早速U-ATOMでの経験を活かしています。というのも、海外インターン先であったスイス研究機関との共同プロジェクトに携わることになったからです。インターンでの留学経験が自信となり、積極的な行動を起こせたからこそ、このチャンスを掴めたのだと思います。これからも自分の可能性を広げることに挑戦し続けたいと思います。

高雲
株式会社
テブコシステムズ



原子力発電所の再稼働に向け、解析コードを用いたシビアアクシデント(SA)解析や大学・官公庁との共同研究開発をしています。U-ATOMで学んだSA解析の手法や考え方を今の仕事に活かしています。また、国内外の原子力施設の見学を通して広めた知見は、国内外の顧客との意見交換時に役立っています。U-ATOMのカリキュラムはとても密度の高いものであり、是非若いうちに若い精神力で色々体験し勉強してください。

平成29年度「世界原子力安全・セキュリティ道場」入門式

U-ATOMへ
ようこそ、
6期生！



平成29年7月5日、東京工業大学の環境エネルギーイノベーション棟多目的ホールにて、U-ATOM6期生の道場入門式が行われました。7月期の入門者は1名ですが、世界の原子力界を牽引するグローバルリーダーを目指して、大きな希望を胸に新たな一歩を踏み出しました。岸本 喜久雄 環境・社会理工学院長の訓示と齊藤 正樹 教育院長の挨拶に続き、学外から来賓として、米川 英樹 日本学生支援機構理事、松井 康真 テレビ朝日報道局記者より、将来の活躍へ向けた期待と激励の祝辞を頂きました。

入門学生の紹介



岡村 知拓 (6期生：修士1年)

私は将来、わが国のエネルギー政策に携わりたいと考えており、U-ATOMを志望しました。東電福島第一原発事故を機に日本のエネルギー問題に関心を持つようになりました。今後のわが国の成長を見据えて、エネルギー源を確保することは重要であり、原子力発電から撤退すべきではないと思います。本教育課程では、専門分野のみならず、多様な講義やコースワーク、国内外の研修が準備されています。そこで志を高く勉学に励みたいと思っています。

第6回 国際シンポジウム・セミナー (The 6th International Symposium and Seminar)

標記国際会議を平成29年2月20日から3月3日にかけて、大岡山キャンパスにおいて開催しました。本国際会議は、文部科学省の支援を受けたU-ATOMが国内外の関連機関と協力して開催したもので、プログラムが採択された平成23年度よりグローバルリーダー教育の一環として毎年開催しています。本学の学生のみならず、国内外の学生、若手社会人を招へいし、テーマは「原子力安全」と「保障措置／核不拡散」を交互に取り上げており、今回は「原子力安全」をテーマとしました。

シンポジウムでは、国内外の著名な専門家等を講師として招き、公開で講演会を行いました。その後、参加学生等は、広島大学原爆放射線医科学研究所、放射線影響研究所および広島平和記念資料館を訪問しました。また、福井県敦賀市の高速増殖原型炉「もんじゅ」を訪問しました。

セミナーでは、第一線の講師陣による講義後に、グローバルリーダーに係るテーマに関して学生同士でグループ討論を行いました。講師陣は29名、当教育院を含む参加学生等27名、一般参加25名を含む約90名の参加があり、マスコミ1社の取材を受け、本国際会議は成功裏に終了しました。



Voice

博士1年
孫 裕蔚



国際シンポジウム・セミナーに参加しました。安全・保障措置・核不拡散を中心においた、幅広いスピーチを聞き、テクニカルツアーでは広島の前爆ドームを訪れました。セミナーの最後に、国際的な学生グループを作って、核燃料サイクルのテーマについて、討論し発表しました。平和と核エネルギーについて、専門家、学生と交流しながら、自己の成長を実感しました。さらに国際力、英語力を深めていきたいと思っています。

研修（欧州、アジア、国内）

欧州研修 リトアニア・オーストリア・スイス (2016.09.10-22)

最初に訪問したリトアニアでは、カウナス工科大で学生同士で原子力の現状と課題について討論をして、理解を深めました。また、在リトアニア日本大使館や杉原記念館を訪問して見聞を広めました。オーストリアでは、ウィーンにある国際原子力機関、包括的核実験禁止条約機関準備委員会や在ウィーン国際機関日本政府代表部を訪問。最後にスイスの放射性廃棄物管理共同組合のモン・テリ岩盤研究所とグリムゼル試験サイトを訪問して、放射性廃棄物の地層処分について学びました。将来の国際リーダーを目指す学生たちは、積極的に質問を重ねました。



Voice
博士1年
金川 俊



学生交流会では、道場ゼミで鍛えた英語力、討議力を生かし充実した議論ができました。スイスの地層処分研究施設見学では、その規模の大きさに驚かされるとともに、高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する知見が深まりました。また、全体を通して様々な国の人や文化に触れ、日本文化のより深い理解が非常に重要であると感じました。

アジア研修 マレーシア (2017.05.01-06)

マレーシア国民大学とテナガ・ナショナル大学では、学生同士の交流を行うとともに、施設見学を行いました。マレーシア原子力庁と原子力規制庁では、施設見学と若手研究者や職員との情報・意見交換を行いました。大学や施設内にヤシの木が茂り、野生の猿が生息するなどマレーシアの自然を感じながら、学生交流や訪問を通して、積極的に学ぶことができました。



Voice
修士2年
福田 航大



原子力専攻を持つ2大学、政府機関と規制機関を訪問しました。訪問を通して、マレーシアの原子力に関する取り組みや課題を知ることができただけでなく、原子力を学ぶ学生たちの生の意見を知ることができ、有意義な時間を過ごすことができました。また、各訪問先で行ったグループ討論により、国際的な場におけるプロジェクト遂行能力を高めることができました。そして何より、原子力を学ぶ多くの友人を得ることができました。

国内研修 長崎・広島 (2016.11.26-28)

世界で唯一の被爆国である日本で原子力を学ぶ学生にとって、広島、長崎を訪れるのは特別なことです。資料館をはじめとした数々の被爆関連施設の訪問や被爆跡地等を実際に歩き、学び、考える。原子力の平和利用だけではない負の現実を目の当たりにし、原子力と向き合う者として姿勢が正されるような体験となりました。



その他の実習・研修

実習・研修名	実施日	実施場所	主な内容
原子炉過酷事故 シミュレーション実習	平成28年 7月19日～22日	日本原子力発電株式会社(福井県 敦賀市)	シミュレータを用いたSA(シビア アクシデント)解析実習
放射性物質環境動態実習	平成28年 8月22日～26日	東工大	緊急時迅速放射能影響予測コード の使用法の実習
国内研修(幌延)	平成28年 8月29日～31日	日本原子力研究開発機構(北海道 天塩郡幌延町)	深地層研究センターにおける地層 処分研究開発施設の見学
核セキュリティ実習	平成29年6月	東工大・日本原子力研究開発機構 (茨城県那珂郡東海村)	核セキュリティに関する基礎と応 用を実践的に実習

国際・国内インターンシップ報告



青木 健 (2期生:博士3年)
テキサス A&M 大学

インターンシップを通して、米国の研究生生活、文化、国民性や宗教などに触れ、多くを学びました。教授陣と学生間の程よい親密さと強い信頼関係、学生の自信や高いモチベーションが印象的でした。また米国は歴史の浅い国であるものの、味わい深く温かい文化を持っていると感じました。



You Yan (2期生:博士3年)
日本原子力研究開発機構
福島研究開発部門

大学での研究活動と研究機関における研究活動の違いを体験できました。4カ月でしたが、放射性物質の扱い方や、災害時の対応、情報セキュリティなど必要な教育プログラムを数十時間かけてしっかり学びました。JAEAでは実験現場の安全管理が厳しく求められていることを改めて実感しました。



川合 康太 (2期生:博士3年)
ベルギー原子力研究所

多様な国籍の職員と協働することにより、国際社会で活躍するための多様な価値観の理解と尊重について学ぶことが出来ました。海外で働く際に必要な素養を自身が有しているか、海外で働きたいかを見極めることができ、自身のキャリアを具体的に描く貴重な経験となりました。

道場講話 (平成28年度実施分)

原子力を含む様々な業種から講師をお招きし、日頃の研究とは違った角度から原子力とエネルギーについて学び、考えることができました。

- 吉澤厚文氏** (原燃輸送株式会社 代表取締役社長[当時])
「福島第一原子力発電所の事故体験と組織レジリエンス」 5月11日
- 田中伸男氏** (笹川平和財団 理事長[当時] 前国際エネルギー機関 事務局長)
「嵐の中のエネルギー戦略」 7月22日
- 近藤久禎氏** (災害医療センター教育研修室長 厚生労働省DMAT事務局次長)
「東日本大震災福島第一原発事故におけるDMAT活動」 7月29日
- 鈴木正昭氏** (エジプト日本科学技術大学 副学長 東京工業大学 名誉教授)
「異文化間の国際協力 教育とエネルギー」 10月6日



活動予定 2017年

- 8.17 韓国科学技術院との学生交流会
- 8.22 テキサス A&M 大学との学生交流会
- 8.28-9.1 第7回 国際シンポジウム・セミナー



最新情報は
こちらから
アクセス!



Information